



# シーティングの基礎 (その13)

## 高齢者のシーティング (その3)

川村一郎

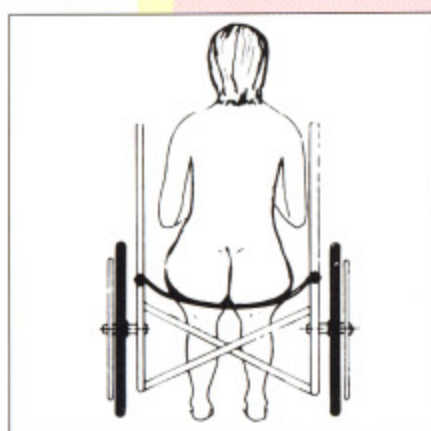
### 歩行不能な高齢者のシーティングの基本

多数の歩行不能な高齢者、特に障害が重度で施設でのケアを必要とする人達では、特別なシーティングのニーズが大きい。これらの人達は、高齢者用の椅子か伝統的な標準型車椅子に座って、座り心地のよくない長時間を過ごす。標準型車椅子は、そもそも自力走行による移動のために設計されたものであって、そこで不適切な姿勢で長時間座っていることは有害である。即ち、褥瘡を発生させたり、屈曲拘縮が生じたりすると共に、貧弱な支持性によって、或いは車椅子から降りようととして転落してりすることによる外傷を生み出すこともある。

高齢者のシーティングの問題は、最近になって多くの各種センターの臨床家や研究者によって取り上げられるようになってきた。その結果、障害を持つ高齢者のためのシーティングの開発に大いなる成果を上げることができた。

歩行不能高齢者のためのシーティングは、歩行可能高齢者と同じ項目で論ずることができる。つまり、

- 1) アクセスしやすい
- 2) 姿勢の安定性
- 3) 快適さ
- 4) 圧力が均等に分布する
- 5) 安全性
- 6) 実用性



第1図  
柔らかいスリングシートに座ることによって生ずるハンモッキング効果



第2図



第3図

#### 1) アクセスしやすい

歩行不能高齢者にとって、シーティングシステムへの乗り移りやすさ、及び降りやすさは、重要な要因である。介護者が高齢者を容易に、また安全にシーティングに乗せたり降ろしたりできることが必要である。信頼できるブレーキシステム、取り外し可能なアームレスト、取り外し可能か、又はスウィングアウェイするフットレスが必要とされる。

#### 2) 姿勢の安定性

多くの障害を持つ高齢者にとって、姿勢の安定性を獲得することは困難である。標準型車椅子は、この点で多くの問題を抱えている。

スリングシートや柔らかいスリング背もたれはハンモッキング効果を生み、患者が車椅子の中で姿勢を変えることを妨げる(第1図)。

そこには、体幹の側方からのサポートがなく、背中、首、頭部の支えもない。高齢者は、しばしば車椅子の中で側方に傾き、屈曲して前方に倒れる。(第2図、第3図)。

高齢者のための新しいタイプのシーティングシステムでは、快適性を得るためにしっかりした固いシートや、体のカーブに合致した背もたれが必須のものとなっている。シートのクッションは、骨盤の安定性を得るために、また椅子の中で患者が前方に滑り出すのを防止するために、前後に少し楔状になっている必要がある。いくつかのセンターで、骨盤を安定させるための他の方法が開発され評価を受けている。

背もたれは、固く、脊柱の全長をカバーし、脊柱の生理的彎曲に合致した形になっている必要がある。側方からのサポートも必要である。ヘッドレストをバックレストの上にとりつけるか、或いはビルトインする。フレキシブルにモジュラーシステム、或いは調節システムが導入しいろいろな体形の変化や脊柱変形に対応できるようにしておく。一般に、背もたれを少し(大体10°位)傾けると快適さを増し、姿勢の安定性を増加する。

### 3) 快適さ

固いカーブ付きのシートと適切な背中支えの導入は、患者の快適さを飛躍的に増大する。シートを覆う材料は、通気性が良く、皮膚からの湿気を取り去るものであり、レッグレストは高さ調節ができ、足関節と膝関節がそれぞれ90°になるようにすると快適さが増大する。(第4図)。

アームレストは、上肢を適切に支持して、肩がリラックスした位置に保てるようにする。多くの場合、上肢の支持のために机(ラップボード)を取りつけることが好ましい(第5図)。



第5図

### 4) 圧力が均等に分布する

前後方向に適当な深さを持つ、固くて、カーブのあるシートクッションが臀部と大腿部の圧力をより均等に分配する。フットレストの高さを適当に調節することにより、大腿部にかかる圧を均等化することができる。バックレストの圧を100°を越えて傾けると、特に高齢者の場合、シェアリング・フォース (Shearing force) が著しく増大するとされている(第6図)。

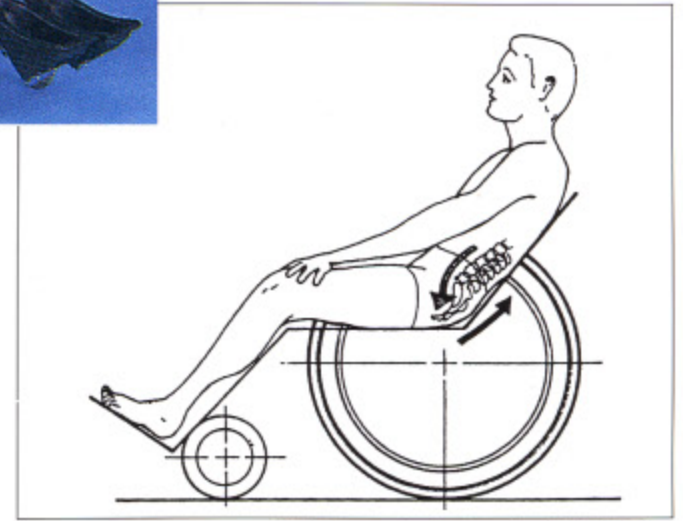
しかし、シートとバックレスト間の角度を変えることなく、椅子又はシーティングシステム全体を傾けることができるならば、シェアや圧は減少し血流が増加する(第7図)。

### 5) 安全性

信頼できるブレーキシステム、及び一般的安定性はどうしても必要な要素である。フットレストやレッグレストに粗雑な、或いは鋭利な縁があってはならない。患者の肌に触れるところはすべてパッドで覆う必要がある。もし、高齢者を椅子に適切に座らせたなら、前方に滑りだしたり、椅子から落ちたりすることはないはずである。しかし、時には膝バンドが必要なこともある。



第6図 オットーボックホイールベースの使用によりシートとバックレストの角度を変えることなく27°傾けることができる。



第7図 バックレストを傾けるとシェアリングフォースが増大する。

### 6) 実用性

高齢者のためのシーティングシステムは、水を透さない繊維でできており、容易に清潔にできるものであり、不燃性であることが望ましい。

このシステムは、介護者により容易に場所の移動ができる必要がある。また、障害者が自走できるときは、その移動が安全且つ容易に可能であることが必須である。

高齢者の多くは、疲労しやすいので独立移動(自走)が確実にできるまでは、電動化が必要である場合が多い。ある患者たちには、机(ラップボード)が極めて有効である。これは、取り外し可能で、容易に清潔にでき、鋭利な縁があってはならない。

たいていの施設にある利用できる物を用いて、簡単に補正することによって、多くの高齢者を車椅子や、その他のシーティングシステムの中で、効果的なポジショニングをすることができることに注目したい。

### 結論

子供であるのと成人であるのとを問わず、身体障害を持つ患者に処方され、適用されるシーティングは、治療プログラムの延長線上で考慮されていなければならない。それは、治療プランの樹立されたゴールの実現を目指すものである。従って、シーティングの再評価を一定期間毎に行うのみならず、機能レベルが変化したり、患者のニーズが変わったりしたときは、その都度再評価を実施する必要がある。

注1) この小論は、OTTO BOCK社発行のSeating in Review: Current Trends For The Disabled, 1989の抄訳をもとにしたものです。

注2) 高齢者のシーティングに関する文献(英文)をご入用の方は、パシフィックニュース編集室までお申し込みください。